

センター周辺や「認定通り」では、30年分の道路工事の様相

これは、橋下さんが市長になる前から決まっていたことですが

工事が多いと、自分がするのでなくとも、なんとなくウキウキと？

釜ヶ崎の中では、しばらく前から、道路工事が盛んです。

私事ですが、1980年前後、宅地造成の仕事が多かった「A建設」という所に直行でいって、更地に下水配管や道路の側溝・縁石・エプロンなどのいわば街区の基盤工事にたずさわったことがあるので、今でも、側溝や歩道工事を見ると、なんとなく、心浮き

浮きしてしまふ。(鉄筋屋の方が長いので、鉄筋工事を見ると、ウキウキする一方で、アラ探ししてしまう)。

で、釜ヶ崎の中の一連の道路工事の行き着

←左の写真は、センター南、萩小北の道路歩道が整備された。



く先は、どうなるのか。とりあえず、知っている情報の伝達。萩之茶屋小学校の北側道路は、一応、完成していると見られます。現在、医療センター西側で歩道の片側が完成、反対側が進行中。さらに、萩之茶屋小学校東側から商店街にかけて、様々な配管工事が進行しており、医療センター東の歩道工事が、順次商店街まで続けられるものと予想されます。

以上までは、見たまままで、「アンタに言われんでも、それくらいのことでは予想できる」ということだろうと、思います。

では、何故、道路工事が増えて、歩道整備が進んでいるのか、この点についてはどうでしょうか。

釜ヶ崎に住んでいない人は、現状だけ見れば、「橋下さんの『あ

←医療センター横。下写真は、萩小の東。昔「認定通り(?)」と



いりん改造』のあらわれ」と思うかもしれませんが、そんなことではないことは、皆よく知っている通りで、平松さんの時からの継続事業にすぎません。

萩之茶屋小学校横の屋台でプロパンが爆発し、覚醒剤を売っている屋台もあったりして、屋台は総て撤去されました。一方、萩之茶屋小学校は、児童数が減少、廃校が検討され始めました。

大阪市・教育委員会と地元（PTAや連合振興町会・地域社協など）と交渉が始まりました。地元は、「児童数の減少は、行政がこどもの住みづらい地域環境を放置してきたからだ、もつと、こどもが住める環境にして、それから児童数問題を持ち出すべきだ」と主張したようです。

ご承知のように、わかき保育園の前の公園は、以前は「あおぞら保育」に使われていましたが、今は炊き出し専用の感があります。「炊き出し公園」や「三角公園」の再整備は、今のところ困難なので、花園北公園の再整備とそこにつづく道路の歩道整備、萩小周辺の道路整備となったものようです。いかなれば、路上や公園で生活する人達へ気を遣いながらの「まちづくり」といえます。勘ぐれば、それらの人達が死に絶えるまでの時間つなぎ。そうあってはならない。死を待たれる存在から、生保活用で長生きを！

市更相は釜ヶ崎（あいりん地域）の福祉相談窓口です。

夜間宿所利用・炊き出し利用、センター周辺や公園での野宿・仮小屋生活から、アパート生活へ！

市立更生相談所（市更相）は、釜ヶ崎（あいりん地域）内の簡宿利用者、夜間宿所利用者、そして、地区内で野宿する人を担当する福祉の相談窓口です。

役所は管轄（縄張り）にこだわりますから、市更相の窓口で「天王寺公園で寝ていた」というと、「天王寺区役所で相談して下さい」といわれます。「鶴見橋商店街で寝ていた」というと、「西成区役所へ行って下さい」といわれます。

この点、相談に行く前に、しっかり確認しておいて下さい。

最低でも、相談に行く前の晩は、夜間宿所かセンター周辺あるいは山王・太子など市更相周辺で寝泊まりしていたことが必要です。地区内の簡宿に止まっている人が、わざわざ野宿していく必要はありません。

1) 医療相談

体の調子の悪い人は、医者を紹介してもらえます。大概は医療センターです。

2) 施設相談

2～3日、三食風呂付きで体の調子を整えたい人は、三徳寮の生活ケアセンターの利用を相談してみてください。

2～3日でなく、長期に施設に入って、体力の回復や過度の飲酒やギャンブル依存などの悪い生活習慣を改善したい人は、長期の寮（生活保護施設）への入所を相談しましょう。生活保護の中の施設保護です。

3) 居宅確保相談

住居のない人が、アパートやマンションを借りて、生活保護の中の居宅保護を申請することができます。この場合は、医療相談でも施設の相談でもなく、居宅保護の相談であることをはっきり、職員に伝える必要があります。